

十七文字の抒情詩



寒いが続いています。皆様風邪などひいていらっしゃいませんか。今号が手元に届く頃はもう新しい年が始まっていることでしょうね。

新しい年が皆様にとって良い年でありますように。

私事ではありますが、昨年の母に続いて今年も十二月に父を亡くしました。母の時はちょうどクリスマスイブで、父はそれより少し早かったけれど、仲の良い夫婦らしく、同じ忌月になりました。そんな状態で、いつもに増して投稿が遅れてご迷惑をおかけしました。父の介護の為仕事を辞め、これから・・・という時だったので、時間は十分あるのですが、何しろぼうっとしていて、思うように頭が働きません。これからぼちぼち私自身も心のリハビリをして行きたいと思っています。



さて、今回も健さんとうさおさんから投句がありましたので拝見しましょう。まず健さんの句です。

本棚の中のこけしや文化の日

本棚のこけしと文化の日という取り合わせが面白いです。本を押しのかけこけしが居座っているという風にしても面白いと思います。

*本棚を陣取るこけし文化の日

小さき雲ぽっかり浮かぶ小春かな

暖かい日に見上げた空に浮かんだ雲、情景が浮かびます。小さい雲だったのでしょうが、特に小さいと言わなくても読み手に想像してもらう方が良いのでは。

*小春日の雲ぽっかりと浮かびけり





うどん屋は更地となりし花八手

商売も大変な時世です。うどん屋さんがあった場所が更地になっていた。それだけなのですが季語がその淋しさを際立てます。

*うどん屋の更地となりて花八つ手

冬寒しポツリと漏らす独り言

どんな独り言を漏らしたのかしら・・・想像してしまいますが、季語を変えるともっと情景が浮かんで来ると思います。

*木枯やぼつりと漏らす独り言

我が家には我が家の具材おでん鍋

そうですね、その家その家での具材があるようです。うんうんと納得できます。

尖塔の屋根に十字架冬銀河

とても良いと思います。美しい風景ですね。に→の に一文字だけ変えてみました。

*尖塔の屋根の十字架冬銀河

健さんはいつも季語の使い方がお上手だと思います。特に遠くへ出かけたり、特別な事をしなくても身近な物を上手く詠まれていますね。

この調子でどんどん佳句を作ってください。

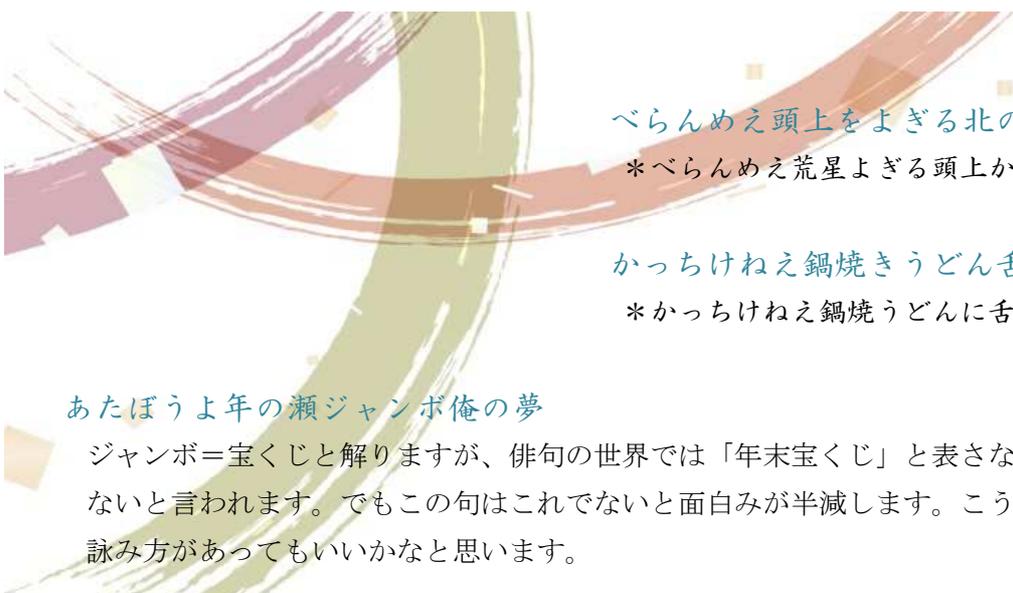
続いてうさおさんの句です。

クリスマス祝ふ山手の西洋館

良いですね、上品なイルミネーション、暖かな部屋を彩るクリスマスツリー、そんなものが見えてきます。山手ですものね。

とんちきめ浮き世神楽の師走かな

とんちきめ・・・というのは面白いと思います。神楽と師走と二つの季語が入っていますが、この場合は良いと思います。新しい試みですね。



べらんめえ頭上をよぎる北の星

*べらんめえ荒星よぎる頭上かな

かっちけねえ鍋焼きうどん舌焼いて

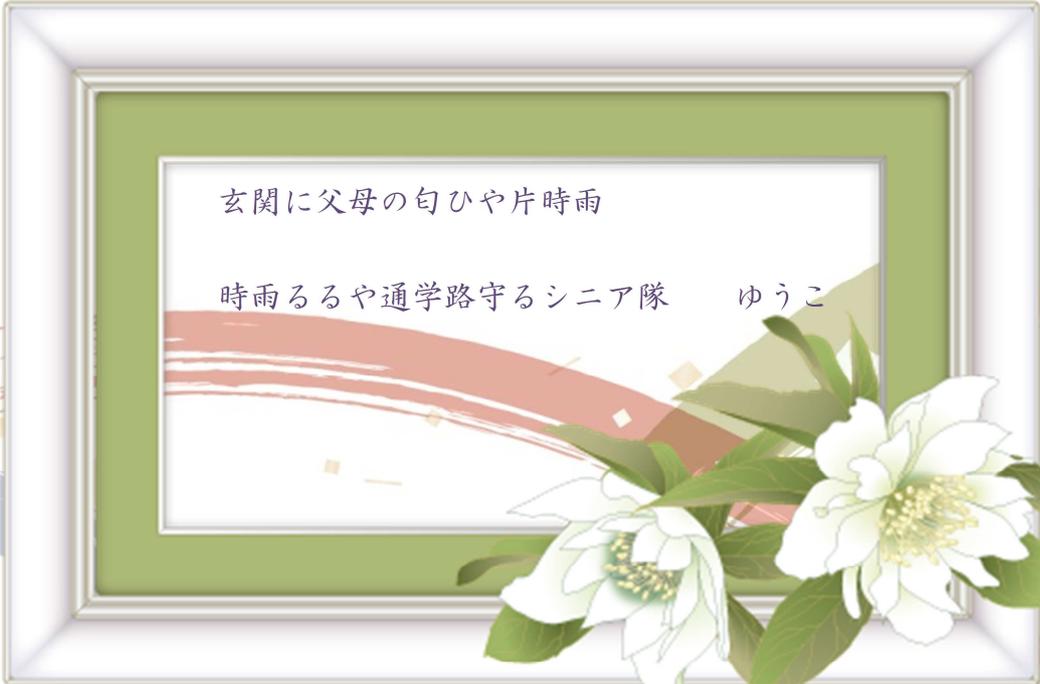
*かっちけねえ鍋焼うどんに舌を焼き

あたぼうよ年の瀬ジャンボ俺の夢

ジャンボ=宝くじと解りますが、俳句の世界では「年末宝くじ」と表さなくてはいけないと言われます。でもこの句はこれでないと面白みが半減します。こういう自由な詠み方があってもいいかなと思います。

他の句も江戸っ子言葉(?) を使われていてどれも面白いです。

川柳ではこういった試みが多く見受けられるようですが、俳句でもこういう俳諧味が必要だと思います。どんどん挑戦してみてください。



玄関に父母の匂ひや片時雨

時雨るるや通学路守るシニア隊 ゆうこ

